

# パートナーシップおかや

No. 11

岡谷市男女共同参画推進市民の会

## 父からのバトン

岡谷市立湊小学校校長 小林 洋子

「これからの時代は、男だから女だからという時代ではない」これは、父が中学生の私に言ってくれた忘れられない言葉です。あの日から40年以上の年月が経ちました。「男女共同参画」という言葉を思い浮かべると、同時にこの父の言葉を思い出します。振り返ってみますと、私は「男だから女だから」ということより、「人間として」という意識で生きてきたように思います。幼い頃からの父の教育方針が、いつの間にか私の中に「人間として」という当たり前の感覚を育ててくれていた、と今更ながら思います。

父は、思いやりのない言動や当然身につけなければならないしつけ面において有無を言わせない厳しさをもっていました。小学校低学年だった私は、高校生の従姉妹に、ほんの少しの意地悪をしたことがありました。家にあったレコードを聴かせてほしいと言った従姉妹に、理由もなく「だめ」と言ったのです。そのことを知った父は私の頬を平手打ちし、「誰であっても人に対して意地悪をするようなことは絶対に許さない」と、言い訳を許さず叱りました。言葉遣

いや礼儀、食事のマナー、靴やスリッパの整え方までも大変厳しかったことを思い出します。

そんな父からも、たった一度だけ「女の人にとっては命を削ることになる。賛成できない」と、女性だから反対されたことがありました。それは私が小学校の先生になるために教育学部へ進学したいと言ったときでした。父が反対した理由は、産休制度がない時代、小学校教師をしていた母が私を産んで1年半後に現職のまま26歳で命を落としていたからでした。父の中では「人間として」という信念を貫いてきた思いと、女性が社会人として生きていくにはまだまだ厳しい社会の構造があるという現実とがせめぎ合っていたのではないかと思います。

父が私に蒔いてくれた「人間として」という種が子どもたちの心の中に根付くことを、今まさに教育現場にいる私は願っています。そして父から受け取ったバトンを次の世代に確かに繋いでいこうと心に決めています。これからの社会を築いていくのは、間違いなく瞳を輝かせて目の前にいる子どもたちであるからです。

## 「パートナーシップ講座」開催される (11月 7日)

11月7日、岡谷南部中学校・依田緑校長先生を講師にお招きし、本年度第1回「パートナーシップ講座」を開催しました。この日は、この他にも各種の会合・講演会・勉強会等が重なり、出席いただける皆さんの出足が心配されましたが、開始時刻の午後7時前までには、会場のイルフプラザ研修室に、市民の方々も含めて、26名の皆さまにお集まりいただきました。



柔らかな語り口で…依田緑先生

依田先生は、講演の中で、ご自身のこれまでのキャリアに触れられ、「小学校4年生の頃から、男と女の『区別』を感じるようになった」「教職について30歳台になった頃、男性にはキャリア向上のための『研修』に参加する機会が与えられるが、女性にはなかなか与えられない」「修学旅行のコースの下見も男性の先生だけに任せてしまうのが当たり前だった」と述懐され、「私にも修学旅行の下見をさせて下さい」と申し出て、周囲の了解をとりつけたエピソードを紹介されました。終始、柔らかな語り口のなかに「人間としてキャリアを積むのに男も女もない。与えられるものを待っているのではなく、自ら拓いていくものである」……さりげなく「メッセージ」として伝えてくれました。

また、「いじめの問題」について、学校で今取り組んでいることを紹介されるとともに、「子どもの成長にとって母性と父性の両方が大切であり、「イクメン」することによって父親も視野が広がるのではないかと説かれました。すてきなセンスをお持ちの先生で、こんな先生にいつも見守られていた今の子どもたちは、本当に幸せだなあと感じました。

(宮坂 安壽恵)

## 特集

# 防災・災害からの復興に女性の参画を！

～なぜ、防災・災害復興に「女性の視点」が必要なのか～

私たちは、阪神・淡路大震災(1995.1.17 発生)の経験から、防災・災害復興には「男女のニーズの違いを把握し、男女双方の視点を取り入れた対策が必要である」ことを学びました。これは、被災時および災害復興時の家庭的責任の分担が女性の側に集中してしまった経過から得られた教訓であり「男女共同参画(第2次)基本計画 2005」には「早急に取組むべき事項」として盛り込まれました。

その後、内閣府が策定した「防災基本計画」では「防災・災害復興のあらゆる場・組織に女性の参画を促進する。障害者・高齢者・女性の声が反映されるよう環境整備に努める」と修正が加えられ今日に至っています。

さて、私たちは、この教訓を阪神・淡路大震災から16年後、東日本大震災(2011.3.11 発生)を経験する中で生かすことが出来たのでしょうか。

### 東日本大震災を経験する中から浮かび上がった問題点

- ・ 平時に「防災・減災計画」は作られていたが、この計画の立案・作成段階には女性が参画していない。避難所運営など「災害現場での方針・意思決定」にも女性が参加していない。
- ・ 震災・防災・減災への具体的対応に女性の視点が入らず、女性への配慮が足りない。
- ・ 一旦災害に遭遇すると、男女間の「固定的役割分担」が強調・強化されてしまった。

### 避難所で見られた具体的な課題

- ・ 運営のリーダーは多くが男性。女性の声はなかなか届かない。
- ・ 女性の切実なプライバシーが守れない(間仕切りがない、着替え・授乳スペースがない)
- ・ 被災者への食事作り(炊き出し)の大半は女性が担当することになり、負担が大きい。
- ・ 瓦礫の処理にあたる男性には日当が出るが、炊き出しに追われる女性には出ない。
- ・ 女性や乳幼児に必要な物資(女性用下着、ベビー用品、粉ミルク、離乳食など)が届かない。
- ・ 保育所・介護施設も被災し、女性は子ども・お年寄りを抱え、仕事に行きたくても行けない。

### 東日本大震災から学んだ災害につよい地域づくり

- 男女共同参画社会を実現させること ⇒ このことが「災害につよい地域作り」につながる。
  - ・ 防災基本計画策定(平時)、災害現地対策本部(被災時)に女性の参画が必要。
  - ・ 防災・災害復興時に活躍できる女性リーダーを平時(普段)より育成する。
- 自然の営みに畏敬の念を忘れない。人知や想定を超える事態もあり得ることを前提に行動する。津波警報が出ていても非難を躊躇し犠牲になった人も多かった。
- 普段の防災教育・避難訓練・助合いの地域作りが、そのまま防災・減災のまちづくりになる。
- 大震災の経験を一過性のものとせず、具体的に「マニュアル」化して地域で共有し合う。地域の要援護者・外国人の皆さんを把握し、相談窓口の設置等を進める。
- 自分で自分の命を守る。家庭内で避難場所や連絡を取り合う方法等を確認しておく。

### 東日本大震災「被災地視察研修旅行(11/15～16 実施)」に参加しました

1日目は、先ず松島海岸を訪ねました。五大堂、あの素晴らしかった松林の景色の中に、大震災が残した爪跡を見たときは驚きの連続でした。地盤沈下が原因で、満潮の度に毎日4回起こる海水の海岸部への浸水現象を目の当たりにして、地元の皆さんのご苦勞の大きさを伺うことが出来ました。

伊達政宗公建立の瑞巖寺は、現在大修復工事中のため、ご本尊、大位牌、大開山木像等は大書院内に特別公開されていましたので、じっくり拝観出来ました。修復工事は2年後に完成とのことでした。



慰霊碑に献花する地元奉仕の女性の皆さん

2日目は、甚大な被害を受けた宮城県名取市閑上(ゆりあげ)地区を見学しました。被災当時、消防団員として被災者の救済にあたった生々しい経験をもつ「震災語り部さん」のお話を、被災当時の記録写真も見せて頂きながら聞くことが出来ました。人々の暮しの場をそっくり呑み込んでしまった津波の恐ろしさが実感として伝わってくるお話でした。

また、1年半以上の時間が経っても住居の土台部分しか残っておらず、夏草だけが空しく生い茂っている様子は、涙なしには見ることが出来ない胸の詰まる光景でした。

プレハブの仮設店舗「閑上さいかい市場」に案内されましたが、心に深い悲しみを秘めつつも、笑顔で頑張っている被災された皆さんの心の強さ、姿には頭の下がる思いでした。東北の被災地の皆さんは本当によく頑張っておられます。

被災された皆さんの「住環境・生活が一日でも早く安定しますように」と心から願わずにはおられません。日程的には多少あわただしかったです。恵まれている現在の自分の姿に「有り難うございます」と手を合わせたくなる、自らを見つめなおす旅でもありました。(浜 さき子)

## 「男女共同参画フォーラム in 長野」参加しました

10月19日、ホテル・メトロポリタン長野（長野市）を会場に、県内外より685名（岡谷市からは11名）が参加して「フォーラム」が開催されました。内閣府・長野県の主催、長野県男女共同参画推進県民会議が協力して行われたものであり、「とくに災害時・災害からの復興時には、女性の視点・ニーズを踏まえた対策を立て実行することの大切さと必要性」を確認・理解し合う場となりました。

### 大いに勉強になりました～「男女共同参画フォーラム in 長野」に参加して

内閣府と阿部県知事の主催者挨拶があった後、男女共同参画政策の「現状と今後の課題」について内閣府より報告と説明がありました。この中で、第3次男女共同参画基本計画の概要が説明され「男性も女性もすべての個人が喜びも責任も分かち合い、その能力・個性を十分発揮することが出来る社会」を展望している。また女性の教育レベルは国際的に見て高いにもかかわらず、労働市場で有効に活用されていないため、教育投資に見合う成果が得られていないと指摘。女性が労働市場で力を発揮している国として、アイスランド、フィンランドが紹介されました。

続いて、堂本暁子さん（前千葉県知事、元参議院議員）より「東日本大震災に学ぶ～災害・復興・防災に男女共同参画の視点を」と題した講演と

3人のパネラーによるディスカッション「男女共同参画の視点に立った災害に強い地域づくり」をテーマに発表と討論がありました。阪神・淡路大震災、東日本大震災、栄村の地震災害からの復興を目の当たりに経験してきたパネラーの皆さんの発表だけに、とくに次の3点が参考になり、勉強になりました。

- ①平常時における男女共同参画社会の実現が、即ち「災害に強い地域づくり」になること。
- ②災害復興対策として意思決定する委員会等に女性の委員が3割以上は参画すること。
- ③高齢者・障害者など災害弱者の声やニーズを平常時から聞き、把握しておくこと。またその声やニーズを反映できる仕組みを地域単位で作っておくこと。（濱 勉さん寄稿）

## 男女共同参画「おかや市民のつどい」開催されました

「男女共同参画社会の実現！」……もっと多くの皆さんに関心を持っていただきたい、知っていただきたい、実現に向けて弾みをつけたい。こんな思いを形にしようと、12月1日、カノラホール（小ホール）を会場に、「男女共同参画 平成24年度 おかや市民のつどい」が開催されました。

主催：おかや市民のつどい実行委員会、岡谷市、岡谷市教育委員会

後援：岡谷市男女共同参画推進市民の会ほか30団体

内容：第1部＝岡谷南高校・岡谷東高校 両校の演劇部合同公演

演目「パラダイス銀河」（脚色：両校演劇部）

第2部＝講演会 講師：高田浩史さん（兼業主夫・作文教室）

演題 ワークライフバランス～夫婦で子育て～

「パパの子育て応援します！」



高校生が盛り上げてくれたステージ

今井竜五市長より開会の挨拶を頂いたあと、第1部、高校生による合同公演「パラダイス銀河」が元気滲刺上演されました。歌あり、ダンスあり、笑いあり、ペーススありの舞台でした。

互いに理解し合い、甘えも許される集団の中に「怠惰な態度・投げやりな行動・逃避したい心」が芽生え始めていたところ、新人の加入を機に「前向きで、元気な集団を取り戻していこうとする試み」が、高校生らしい瑞々しい感覚で表現されていました。男子・女子生徒が、男女の力関係ではなく、先輩・後輩の力関係を大切に保ちながら、自然体で盛り上げてくれました。今の高校生の考えていること・思っていることの一部が理解・納得でき、元気を貰うことが出来ました。

第2部は、講師が初めから、ステージを降りられ、私たち聴衆の近くで、親しく話し掛けてくれる講演でした。私たち聴衆の年齢を察知され、「ジジ・パパ子育て応援」に切り替えて下さったのだと思います。話されたことは、「父母は仲良く暮らす」「まず、自分が生き生きすること」「笑顔でいること」。パートナーへは「思いやる、認め合う、助け合う、そして愛称で呼び合う」。子育てのポイントは「①話を聞いてあげる ②スキンシップする ③父親は子どもに自分の仕事を見せる ④そして「頑張っている自分(子ども)を肯定しよう」と結ばれました。

こんな素敵な先生が近くにいてくれたらどんなによいことかと思いました。（小口 光子）

## 「日本女性会議 2012 仙台」

10月26(金)～28(日)の3日間にわたって、日本女性会議が仙台国際センター(宮城県仙台市)を会場に開催されました。日本女性会議2012実行委員会、仙台市、せんだい男女共同参画財団が主催(ノルウェー王国大使館が特別協力)、「きめる、うごく、東北から」をテーマに開かれたものです。

会議の内容は多岐に渡り、①開閉会式・基調報告、②特別プログラム(Pディスカッション)「女性たちが語る3.11～これまでと今と」、③交流会、④分科会(6分科)、⑤記念講演(講師にノルウェー王国の国会議員)、⑥シンポジウム、⑦エクスカージョン(被災地の視察・応援)などがもたれました。

### 熱気にあふれた力強い大会でした～「日本女性会議 2012 仙台」に参加して

東日本大震災で、宮城野地区を中心に大きな被害を受け、その復興に取り組んでいる最中、奥山恵美子仙台市長を大会長に「きめる、うごく、東北から」を大会テーマに、焦点的で力強い大会が開催されました。

大会前のエクスカージョンで、児童全員が屋上に避難・孤立したものの、無事に救助された中野小学校の無残な校舎と、一面の雑草地と化した集落を視察。被災者との懇談を通して大災害の現実に触れることが出来ました。

特別プログラム「女性たちが語る3.11～これまでと今と」では、南三陸ホテルの女将や新聞記者、ボランティア活動法人、子育て支援団体の代表など、それぞれの立場から具体的な活動

の様子や思いが語られ、心打たれました。

また6つの分科会でも、復興・防災、原発事故と母子支援、外国人支援等の人権問題を中心に、集中的に意見交換がなされました。

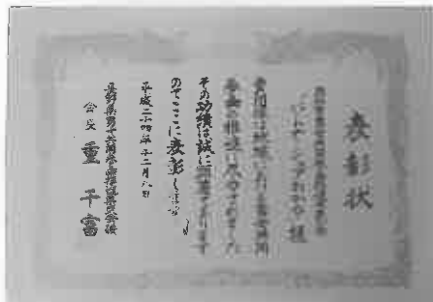
記念講演は、ノルウェーの31歳の女性国会議員が「女性のエンパワーメント」と題して話され、ノルウェー初の女性首相ブルントラントさんのビデオメッセージも紹介されました。仙台市には「ノルウェーに学ぶ会」が組織され、視察のツアーも行われています。

参加者は、延べ2,100人という熱気にあふれ、災害から立ち上がろうとする女性の力を肌で感じた女性会議でした。なお、来年度は徳島県の阿南市で開催されます。(小池 喜代)

### 平成24年度 男女共同参画推進

## 県民大会開催される

～岡谷市男女共同参画推進市民の会、表彰を受ける～



平成24年度の表彰を受けました

長野県男女共同参画推進県民会議・長野県が主催する「県民大会」が12月8日、長野県男女共同参画センター「あいとびあ」で開かれました。男女共同参画社会の実現は、21世紀の社会のあり様を決定する最重要課題である」との認識に立ち、実現に向けて県民の「気運醸成を図る」とともに「自発的・自主的な活動が促進される」ことを目的に、午前(講演)から午後(表彰式)にかけての大会となりました。

午前の部では、加藤さゆり副知事・県民会議重千富会長の開会挨拶、来賓(佐々木祥二県議会副議長)祝辞に引き続き、「政治における男女共同参画を推進する方策」と題して、小林良彰氏(内閣府日本学術会議副議長・慶応大学法学部客員教授)の講演がありました。「選挙制度と女性議員が選出される関係」について分かりやすく解説された後、韓国や西欧諸国で採用されている「クォータ制」の功罪について論及。その上で、わが国の国会議員・地方議会議員の選挙で「女性が選出され易く、いわゆる『一票の格差の問題』にも配慮した選挙制度」「議会運営のあり方」を提言されました。

午後の部は、アトラクションとして「ウィンズ・ファミリアすわ」の皆さんが奏でる軽音楽を楽しんだ後、表彰式がありました。女性の社会における活躍支援・男女共同参画社会の実現に向け、精力的・献身的に活動され、顕著な成果を収めておられる小池喜代さん(岡谷市 現・国際女性教育振興会長長野県支部長)ほか2個人と、2団体(内1団体は「岡谷市男女共同参画推進市民の会」)に、県民会議会長より表彰状が授与されました。私ども「市民の会」が表彰を受けたことは、これまで10年間にわたり積み上げてきた諸活動が、「地域社会の男女共同参画の推進に資するものであった」と認めて頂いたことに他なりません。会員の皆さま全員で、この受賞の重みを噛みしめ、喜びを分かち合いたいと思います。とともに、今後の「なお一層の活動」に向けて決意を新たに致したいと思います。

なお、受賞に伴い、「受賞者事例発表」の機会を頂きました。「市民の会」設立の経過と、これまでの10年の歩み・活動の実態等について、パワーポイントを使って、歴代の会長さん(小口光子さん、伊藤綾子さん、小池喜代さん)に発表して頂きました。参会の皆さまからは大きな拍手が寄せられました。(三澤 勲)

### 会員の皆さま

師走を迎え、何かとお気忙しい毎日をお過ごしのことと存じます。これまで活動を進めるにあたり、皆さまから種々ご協力頂きました。誠に有り難く、感謝申し上げます。今後とも宜しくお願ひします。よいお年をお迎え下さい。